

・下記で使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。

日本の株式市場

市場の動向

日本株式市場の代表的な指数である東証株価指数(TOPIX)は、10月24日比で7.35%上昇しました。
日本株式市場は、米国の好調な経済指標を受けてドル高円安が進行したことなどから上昇しました。週末には、日銀の追加金融緩和がタイミング、規模ともに大きなサプライズとなり、日本株式市場は週間でも大幅に上昇しました。

今後発表予定の主な経済指標など

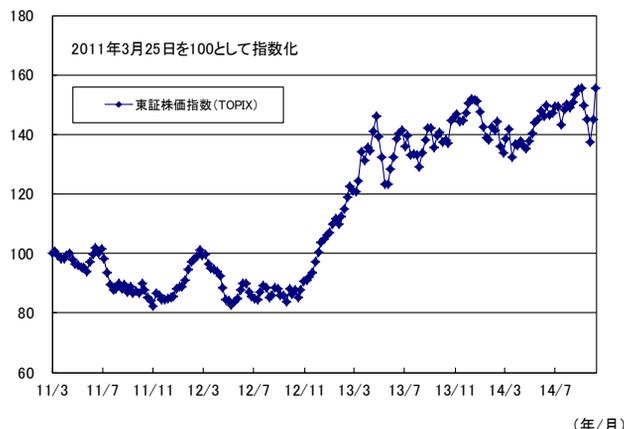
- 6日発表 景気動向指数(9月)

など

騰落率がプラスの場合: 😊
騰落率がマイナスの場合: ☹️
騰落率が横ばいの場合: 😐

先週の騰落率	先週の相場動向
7.35%	😊

<期間>2011年3月25日～2014年10月31日



東証株価指数 (TOPIX)	2014/10/24	2014/10/31	騰落率
	1,242.32	1,333.64	7.35%

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

東証株価指数 (TOPIX) の指数値及び TOPIX の商標は、株式会社東京証券取引所 (以下「東証」といいます。) の知的財産であり、株価指数の算出、指数値の公表、利用など TOPIX に関するすべての権利及び TOPIX の商標に関するすべての権利は東証が有します。

世界の株式市場

市場の動向

海外株式市場全体の動きを表す代表的な指数である MSCI-KOKUSAI 指数は、10月24日比円ベースで、6.03% 上昇しました。
米国株式市場 (現地通貨ベース) は、FOMC (米連邦公開市場委員会) は量的金融緩和を予定通り終了すると決定したものの、米大手企業の好調な決算発表、市場予想を上回った7-9月期の米実質GDP (国内総生産) 成長率 (速報値) や日銀の追加金融緩和などを好感し、上昇しました。
欧州株式市場 (現地通貨ベース) は、欧州大手企業の好調な決算発表や、米国の好調な経済指標、日銀の追加金融緩和などを好感し、上昇しました。
アジア (日本を除く) オセアニア株式市場 (現地通貨ベース) は、日銀による追加金融緩和、豪州大手企業の好調な決算発表、中国政府による経済対策期待などを受け、上昇しました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 4日発表 米製造業受注指数 (9月)
- 5日発表 ユーロ圏小売売上高 (9月)
- 6日発表 ECB (欧州中央銀行) 金融政策
- 7日発表 米雇用統計 (10月)

など

騰落率がプラスの場合: 😊
騰落率がマイナスの場合: ☹️
騰落率が横ばいの場合: 😐

先週の騰落率	先週の相場動向
6.03%	😊

<期間>2011年3月25日～2014年10月31日



MSCI-KOKUSAI 指数 (円ベース・ヘッジなし)	2014/10/24	2014/10/31	騰落率
	2,208.50	2,341.76	6.03%
円/ドル	108.17円	112.11円	3.64%
円/ユーロ	137.03円	140.46円	2.50%

<指数出所> FactSetからのデータを基に野村アセットマネジメント作成
<為替出所> 当該日ロンドン時間16時発表のWMOイターの為替レートを基に野村アセットマネジメント作成

MSCI-KOKUSAI 指数は、MSCIが開発した指数であり、同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

・下記で使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。

日本の債券市場

市場の動向

日本の債券市場動向を表す代表的な指標であるNOMURA-BPI総合は、10月24日比で0.12%上昇しました。日本債券市場は、日米金融政策の方向性を見極めたいとの思惑などから、横ばい圏の動きで始まりました。しかし、週末に日銀が追加金融緩和策として、国債買入れの増額と買入れの平均残存年限の長期化を決定しました。これをきっかけに、残存10年超の債券利回りが大きく低下(価格は上昇)したことなどから、日本債券市場は週間では上昇しました。長期金利の指標となる10年国債利回りは、10月24日比で低下し、0.46%となりました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 5日発表 毎月勤労統計(9月) など
- 6日発表 景気動向指数(9月) など

	2014/10/24	2014/10/31	変化幅
日本10年国債利回り*	0.47%	0.46%	-0.01%

※ブルームバーグ・ジェネリック10年国債利回り

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

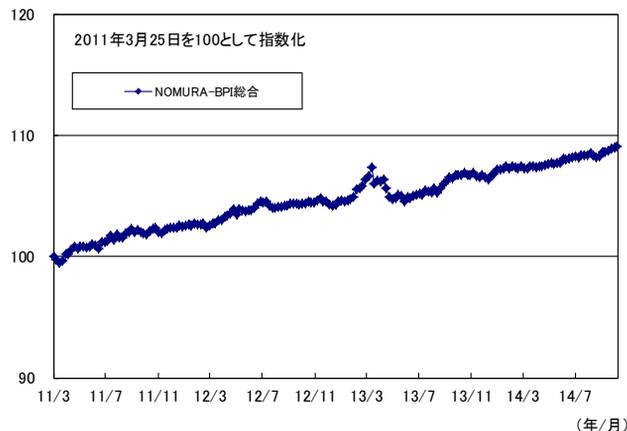
先週の騰落率

0.12%

先週の相場動向



<期間>2011年3月25日～2014年10月31日



NOMURA-BPI総合	2014/10/24	2014/10/31	騰落率
	358.63	359.08	0.12%

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

NOMURA-BPI総合は、野村証券株式会社が作成している指数で、当該指数に関する一切の知的財産権とその他の権利は野村証券株式会社に帰属しております。また、野村証券株式会社は、当該インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

世界の債券市場

市場の動向

世界債券市場の動きを示す代表的な指数であるシティ世界国債インデックスは、10月24日比円ベースで、3.18%上昇しました。米国債券市場(現地通貨ベース)は、FOMCにおいて量的緩和策の終了が決まったことや、声明文が市場ではややタカ派のと受け止められたことなどを背景として、債券利回りは上昇(価格は下落)しました。欧州債券市場(現地通貨ベース)は、10月の独Ifa景況感指数が市場予想を下回ったことなどを背景として、ドイツ国債利回りは低下(価格は上昇)しました。為替は、24日比で円/ドルレートは円安・ドル高、円/ユーロレートは円安・ユーロ高となりました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 5日発表 米ISM(供給管理協会)非製造業景況感指数(10月) など
- 6日発表 英金融政策
- 6日発表 ECB金融政策
- 7日発表 米雇用統計(10月)
- 7日発表 米消費者信用残高(9月)

	2014/10/24	2014/10/31	変化幅
米国10年国債利回り*	2.27%	2.34%	0.07%
ドイツ10年国債利回り*	0.89%	0.84%	-0.05%

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

先週の騰落率

3.18%

先週の相場動向



<期間>2011年3月25日～2014年10月31日



シティ世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)	2014/10/24	2014/10/31	騰落率
	435.55	449.38	3.18%
円/ドル	108.17円	112.11円	3.64%
円/ユーロ	137.03円	140.46円	2.50%

<指数出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

<為替出所>当該日ロンドン時間16時発表のWMロイターの為替レートを基に野村アセットマネジメント作成

シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCの知的財産であり、指数の算出、数値の公表、利用など指数に関する全ての権利は、Citigroup Index LLCが有しています。

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

※ブルームバーグ・ジェネリック10年国債利回り

・下記で使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。 ・REITとは、不動産投資信託証券を指します。

J-REIT市場

市場の動向

J-REIT市場(東証REIT指数(配当込み))は、10月24日比で5.57%上昇しました。日本銀行が金融緩和の拡大を発表したことなどが背景にあります。

日銀は追加金融緩和策の中でJ-REITについて、保有残高が年間約900億円(3倍増)に相当するペースで増加するよう買入れを行うことを決定しました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 5日発表 毎月勤労統計(9月)
- 6日発表 景気動向指数(9月)

など

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

先週の騰落率

5.57%

先週の相場動向



<期間>2011年3月25日～2014年10月31日



<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

東証REIT指数の指数値及び東証REIT指数の商標は、株式会社東京証券取引所(以下「東証」といいます。)の知的財産であり、東証REIT指数の算出、指数値の公表、利用など東証REIT指数に関するすべての権利及び東証REIT指数の商標に関するすべての権利は東証が有します。

世界のREIT市場

市場の動向

世界REIT市場(S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み))は、10月24日比円ベースで、6.00%上昇しました。

米国REIT市場(現地通貨ベース)は、7-9月期の米実質GDP(速報値)が市場予想を上回る伸びとなったことや、ショッピングモール大手REITの決算が良好だったことなどから上昇しました。

欧州REIT市場や豪州REIT市場(ともに現地通貨ベース)は、米経済指標が好調だったことや、日銀が追加金融緩和を決定したことなどを背景に上昇しました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 5日発表 米ISM非製造業景況感指数(10月)
- 6日発表 英金融政策
- 6日発表 ECB金融政策
- 7日発表 米雇用統計(10月)
- 7日発表 米消費者信用残高(9月)

など

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

先週の騰落率

6.00%

先週の相場動向



<期間>2011年3月25日～2014年10月31日



<指数出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成
<為替出所>当該日ロンドン時間16時発表のWMロイターの為替レートを基に野村アセットマネジメント作成

S&P先進国REIT指数はスタンダード&プアーズファイナンシャルサービスズエルエルシーの所有する登録商標です。

・下記で使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。

新興国の株式市場

市場の動向

新興国株式市場全体の動きを表す代表的な指数であるMSCI エマージング・マーケット・インデックスは、10月24日比円ベースで、7.01%上昇しました。

中国株式市場(現地通貨ベース)は、中国政府による経済政策への期待が高まったことなどから上昇しました。

ロシア株式市場(現地通貨ベース)は、ウクライナへのガス供給再開合意を受けて、ウクライナ情勢の緊張緩和への期待が高まったことなどから上昇しました。

ブラジル株式市場(現地通貨ベース)は、9月の融資残高が前月から上昇したことなどから上昇しました。

南アフリカ株式市場(現地通貨ベース)は、9月の貿易赤字が市場予想を下回ったことなどが好感されて上昇しました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 4日発表 ブラジル鉱工業生産指数(9月)
 - 5-6日発表 ロシアCPI(消費者物価指数、10月)
- など

騰落率がプラスの場合: 😊

先週の騰落率

先週の相場動向

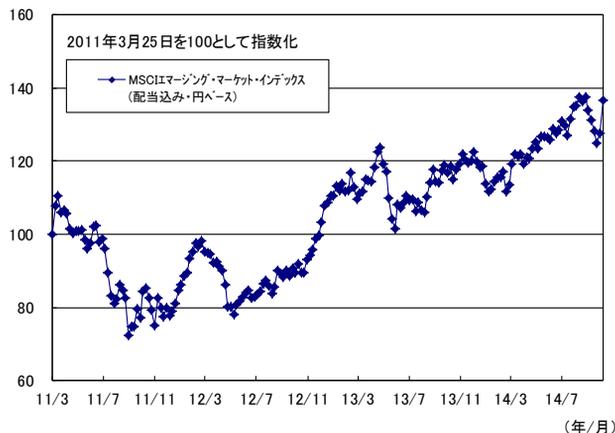
騰落率がマイナスの場合: 😞

7.01%



騰落率が横ばいの場合: 😐

<期間>2011年3月25日～2014年10月31日



MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み・円ベース)	2014/10/24	2014/10/31	騰落率
	1,755.20	1,878.16	7.01%

<出所>FactSetからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCIが開発した指数であり、同指数に対する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

新興国の債券市場

市場の動向

新興国債券市場全体の動きを示す代表的な指数であるJPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドは、10月24日比円ベースで、3.43%上昇しました。

ブラジルでは、大統領選決選投票で現職のルセフ氏が勝利したことを受け、債券指数は下落して始まりました。一方で、ブラジル中央銀行は市場予想に反して政策金利を0.25%引き上げ、11.25%とすることを決定しました。声明においては、インフレリスクが高まっている中、より好ましいインフレ見通しを確保するため、金融状況を調整することが適切とされました。こうした投資環境の中、同国の債券指数は週間ではほぼ横ばいとなりました。

ロシアでは、地政学的リスクなどを受け下落して始まりました。週末には、ロシア中央銀行が政策金利を1.50%引き上げ、9.50%とすることを決定しました。利上げ幅は市場予想を上回りました。こうした投資環境の中、同国の債券指数は週間でも下落しました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 5日発表 インドネシアGDP(7-9月期)
 - 5日発表 ポーランド金融政策
 - 6日発表 マレーシア金融政策
 - 7日発表 ブラジルIPCA(拡大消費者物価指数、10月)
- など

騰落率がプラスの場合: 😊

先週の騰落率

先週の相場動向

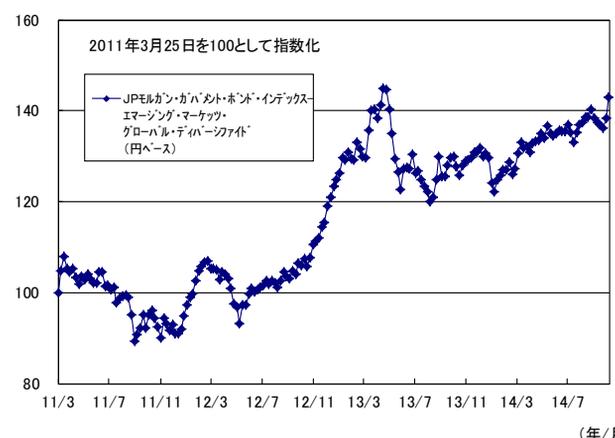
騰落率がマイナスの場合: 😞

3.43%



騰落率が横ばいの場合: 😐

<期間>2011年3月25日～2014年10月31日



JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)	2014/10/24	2014/10/31	騰落率
	269.29	278.54	3.43%

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (JP Morgan Government Bond Index - Emerging Markets Global Diversified) は、J.P.Morgan Securities LLCが公表している、現地通貨建てのエマージング・マーケット債を対象としたインデックスであり、その著作権および知的財産権は同社に帰属します。

【野村アセットマネジメントからのお知らせ】

■投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし、投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価格が変動します。したがって投資家の皆様のご投資された金額を下回り損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧下さい。

■投資信託に係る費用について

2014年11月現在

<p>ご購入時手数料 《上限4.32% (税込み)》</p>	<p>投資家が投資信託のご購入のお申込みをする際に負担する費用です。販売会社が販売に係る費用として受け取ります。手数料率等については、投資信託の販売会社に確認する必要があります。投資信託によっては、換金時(および償還時)に「ご換金時手数料」等がかかる場合もあります。</p>
<p>運用管理費用(信託報酬) 《上限2.1816% (税込み)》</p>	<p>投資家はその投資信託を保有する期間に応じたかかる費用です。委託会社は運用に対する報酬として、受託会社は信託財産の保管・管理の費用として、販売会社は収益分配金や償還金の取扱事務費用や運用報告書の発送費用等として、それぞれ按分して受け取ります。 * 一部のファンドについては、運用実績に応じて報酬が別途かかる場合があります。 * ファンド・オブ・ファンズの場合は、一部を除き、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬等が別途かかります。</p>
<p>信託財産留保額 《上限0.5%》</p>	<p>投資家が投資信託をご換金する際等に負担します。投資家の換金等によって信託財産内で発生するコストをその投資家自身が負担する趣旨で設けられています。</p>
<p>その他の費用</p>	<p>上記の他に、「組入価値証券等の売買の際に発生する売買委託手数料」、「ファンドに関する租税」、「監査費用」、「外国での資産の保管等に要する諸費用」等、保有する期間等に応じてご負担いただく費用があります。運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。</p>

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、野村アセットマネジメントが運用するすべての公募投資信託のうち、投資家の皆様にご負担いただく、それぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をご覧下さい。

投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断下さい。

商号:野村アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号

加入協会:一般社団法人投資信託協会／一般社団法人日本投資顧問業協会